

審査情報提供事例について

審査支払機関における診療（調剤）報酬に関する審査は、国民健康保険法及び各法、療担規則及び薬担規則並びに療担基準、診療（調剤）報酬点数表並びに関係諸通知等を踏まえ各審査委員会の医学的見解に基づいて行われています。

他方、高度多様化する診療内容についての的確、かつ、迅速な審査を求められており、各審査委員会から自らの審査の参考とするため、他の審査委員会の審査状況について知りたいとの要望のある事例について、平成17年度より全国調査を実施し、各審査委員会及び国保連合会間で情報の共有をまいりました。

今般、審査の公平・公正性に対する関係方面からの信頼を確保するため、審査上の一般的な取扱いについて、「審査情報提供事例」として広く関係者に情報提供することといたしました。

今後、全国国保診療報酬審査委員会会長連絡協議会等で協議を重ね提供事例を逐次拡充させることとしております。

なお、療担規則等に照らして、それぞれの診療行為の必要性、妥当性などに係る医学的判断に基づいた審査が行われることを前提としていますので、本提供事例に示されている方向性がすべての個別事例に係る審査において、画一的あるいは一律的に適用されるものでないことにご留意願います。

平成23年3月

3 4 5 放射性医薬品基準ピロリン酸テクネチウム(99mTc)注射液 調製用(循環器 11、神経 27、医学放射線 2、核医学 3、アミロイドーシス 1)

《令和 2 年 1 0 月 2 6 日新規》

標榜薬効(薬効コード)

放射性医薬品(430)

成分名

放射性医薬品基準ピロリン酸テクネチウム(99mTc)注射液 調製用

【注射薬】

主な製品名

テクネピロリン酸キット

承認されている効能・効果

心シンチグラムによる心疾患の診断

骨シンチグラムによる骨疾患の診断

承認されている用法・用量

心シンチグラフィ

本品を冷蔵庫から取り出し室温に戻した後、日局「生理食塩液」2~4mLを加え、よく振り混ぜた後、約半量を被検者に静注し、約30分後に放薬基「過テクネチウム酸ナトリウム(99mTc)注射液」370~740MBqを静注し、シンチレーションスキャナー又はシンチレーションカメラを用いて静注直後より速やかにディテクターを体外より胸部に向けて撮影することによりRIアンギオカルジオグラムを得、またRIアンギオカルジオグラフィ終了後に撮影することにより心プールシンチグラムを得る。

骨シンチグラフィ

本品を冷蔵庫から取り出し室温に戻した後、放薬基「過テクネチウム酸ナトリウム(99mTc)注射液」1~9mLを加えよく振り混ぜた後、室温に5分間放置する。

調製されたピロリン酸テクネチウム(99mTc)注射液185~555MBqを被検者に静注し、1~6時間後にシンチレーションスキャナー又はシンチレーションカメラを用いてディテクターを体外より骨診断箇所に向けて走査又は撮影することにより骨シンチグラムを得る。

薬理作用

心シンチグラフィ

Sn-ピロリン酸は赤血球表面に^{99m}Tcとの結合を可能とする準備状態を作り、その後^{99m}TcO₄⁻を投与すると、30分後には標識率は96%になり5時間経過しても標識率は低下せずかえって上昇する傾向が認められる。

^{99m}Tcの尿中への排泄は3時間後までで投与量の10%であり、その大部分は初期に排泄される。

骨シンチグラフィ

^{99m}Tc-ピロリン酸の集積は静注後正常骨部で3時間後に、また病変骨部で4時間前後にピークを示し、病変骨部は正常骨部に比して緩やかに減少する。また正常骨部に対する病変骨部の集積比は1.1～23.1の範囲である。

使用例

原則として、「放射性医薬品基準ピロリン酸テクネチウム(^{99m}Tc)注射液 調製用【注射薬】」を「心シンチグラムによる心疾患の診断」目的で骨シンチグラムと同様の用法により使用した場合、当該使用事例を審査上認める。

使用例において審査上認める根拠

薬理作用に基づいており、妥当と推定される。

留意事項

心アミロイドーシス、急性心筋梗塞等、心シンチグラムによる診断が有用な症例において使用されるべきであること。

当該使用例の用法・用量

本品を冷蔵庫から取り出し室温に戻した後、放薬基「過テクネチウム酸ナトリウム(^{99m}Tc)注射液」1～9mLを加え良く振り混ぜた後、室温に5分間放置する。

調製されたピロリン酸テクネチウム(^{99m}Tc)注射液370～740MBqを被検者に静注し、1～6時間後にシンチレーションカメラを用いて胸部を撮影することにより心シンチグラムを得る。

その他参考資料等

心臓核医学検査ガイドライン（2010年改訂版）

急性冠症候群ガイドライン（2018年改訂版）

急性・慢性心不全診療ガイドライン（2017年改訂版）

心筋症診療ガイドライン（2018年改訂版）